

(仮称) 篠原地区公園の整備に伴うサウンディング調査の結果について

1. 調査の目的

甲斐市では、山梨県緑化センター跡地を活用し「(仮称) 篠原地区公園」として次世代を担う子どもたちを主役とし、「次世代へつなぐ創造の森」を基本コンセプトとした都市公園の整備を進めています。本調査は、公園の設計業務や整備後の管理運営に向けて「施設の維持管理方法」「公園における事業展開」「カフェ等における公民連携(パーク PFI 等)の可能性」など、市民・団体・民間事業者の視点から、自由かつ実現可能なアイデアやノウハウを募集したものです。



2. 調査の結果

● 調査概要

申込期間：令和4年11月30日(水)まで

対話実施期間：令和4年11月21日(月)～令和5年1月25日(水)

提案数：市民・団体 15者、民間事業者 15者、

民間事業者業種：遊具=5者、子育て=3者、屋外・植栽=4者、その他=3者

● 市民 / 市民団体からの主な意見・提案

● 子育て世代が安心できる。

- ・気軽に不安や悩みを打ち明けられる場の活用として、何度か話をするうちに信頼関係を構築したら、専門的な相談員へつなぐ一定のルール・線引きが必要。
- ・子育て世代が継続的なサポート体制があることを実感できる施設になると良い。
- ・子どもが遊ぶ側で見守りながらお茶やランチができる場所が理想。
- ・不登校児が、気楽に来て集えるような場所になると良い。
- ・コワーキングスペースの機能がほしい。

● 子どもの自主性を育む公園に。

- ・農林高校の生徒達の野外事業や実習など、学校の中でだけでなく自然相手に学ぶ場になってほしい。
- ・プレーパークは、遊具をあまり置かず作り込みすぎず、プレーリーダーを配置し、子どもが自由に自分で遊びをつくるスタイルが理想。
- ・あれはダメこれはダメという公園では無く、子ども達が自然の中で自由に遊べる環境にして欲しい。
- ・ITやデジタル技術が進んでおり、児童書コーナーにも、今の子ども達に合致するデジタル教材を取り入れていくべき。

● 多世代が利用したくなる。

- ・子育て世代を中心に、高齢者も訪れ、次の世代に知恵や歴史文化を伝承していくような場所に。
- ・多世代の方が自分の得意を活かしながら、世代を超えて相互に支えあえるような場所になって欲しい。
- ・中高生向けの放課後の居場所となって欲しい。
- ・障がい児が遊べたり、高齢者もリハビリできるインクルーシブ公園となって欲しい。
- ・発表の場、ギャラリー、企画展など集客できる工夫がほしい。

● ボランティア、体験、教室などさまざまな関わりがしたい。

- ・公民連携、市民参加というような形であれば関わりたい。
- ・学生のボランティアを巻き込みながら、若い世代にもつないでいきたい。
- ・枯葉の整理管理などのボランティアとして関わるのは可能。
- ・折り紙教室をやっているので、子どもと一緒に作るなどで協力できる。
- ・インクルーシブ遊具設置検討の際に、障がい児を連れてきて体験させるなどの協力は可能。

● 民間事業者からの主な意見・提案

● 安心して子供を見守れる状況づくり

- ・ 子供を見守れる近くにカフェがあった方が安心して遊ばせることができる。
- ・ 複合施設内のカフェの運営は、飲食事業での収益化というより、コミュニティの場としての運営をイメージ。
- ・ 子育てひろばに遊びに来た親子が遊びながら、気軽に運営スタッフと話している内に相談していたという環境を作るため、一時預かりとセットで相談業務も必要。

● 多世代が日常の一部として利用できる公園に。

- ・ 赤ちゃんから高齢者までが来られる場所ができると良い。子育て支援を包括して支えるような施設にしたい。
- ・ 子供を公園で遊ばせながら、大人もお酒を楽しむような風景が理想的。
- ・ 市民の「参加」は大事にしたい。地域みんなが当事者になり、お客さんを作りたくない。

● 平日も楽しめるようなコンテンツの充実。

- ・ 平日の需要を生み出すためにカフェはあった方が良い。
- ・ 北側エリアにカフェがあると賑わいが公園全体まで広がる。
- ・ 平日昼間の需要を生み出せるかが重要。フィットネスは屋内を中心にしながら屋外をつかう、という視点であれば収益性は安定する。子育て支援施設であれば母親・シニア層をターゲットにすることが可能。

● 既存の状況を最大限に生かした整備計画が望ましい。

- ・ 木登り、ふかふかの落ち葉、じゃぶじゃぶプールなど、奇抜なことというより現状を生かして、豊かさを享受する意識。
- ・ 既存の樹木や森をどう活かすかが重要。遊具は、屋外空間が豊かなのでそれを生かして過度に整備せず、屋内遊具を充実させる。
- ・ ビオトープなど、水と触れ合える空間が大切にしたい。
- ・ 生物多様性の観点で水辺もあると良い。
- ・ 園路の動線は既存の樹木の状態や密度を観察しながら詳細ルートの設定できると良い。
- ・ 住宅地の中に突然現れる森のような、鳥の音が聞こえる環境を生かしたい。
- ・ 街中に木陰があることが他の公園と差別化する価値になる。木漏れ日の小道沿いに小さな店が点在しているイメージ。

● 運営への興味・可能性

- ・屋内、屋外の遊具エリアの運営に興味ある。
- ・興味あり。スキームや条件については、協議をしたい。
- ・全体企画・コーディネートは実績ないが興味はある。
- ・自社で運営している子育て支援施設のようなモデルを地方へと展開していきたい。
- ・子育て支援や屋外遊具など、専門性が高い分野については他の事業者と協業もしくは委託契約での運営を想定。
- ・運営受託のみではなく、企画段階から参画したい。
- ・運営開始後も、事業者任せではなく、行政も一緒に並走していくようなスキームが望ましい。

● 飲食施設は、民間の単独採算では事業性が厳しいため、市としてのサポートを。

- ・カフェ単体での採算は難しい。
- ・立地的に安定した経営は難しい。特に平日の売上げが厳しい。
- ・建物・厨房設備までを行政負担とするなど、初期投資負担を軽減してもらいたい。
- ・レストラン仕様のオーバースペックは必要なく、ランチが提供できる少ない投資からスタートするのがよい。
- ・山梨はマルシェが盛んなので、タイニーハウスのような小さな区画貸しの需要はある。
- ・地元の食材を使うなどの条件にして、使用料を安く設定して欲しい。
- ・お酒を提供することを許可して欲しい。夏のイベントには集客が期待できる。

3. 今後の予定

調査結果を参考に、今後の整備方針・設計、事業者公募の策定に向けて検討を進めてまいります。

お問い合わせ先

甲斐市 都市建設部 都市計画課 緑化センター活用推進係

mail ryokukacenter@city.kai.yamanashi.jp